

ソシュールの「記号表現」は意味の三角形の「記号」に該当し、「記号内容」は「思考・指示」と「指示物」に該当します。ソシュールの図を、オグデンとリチャーズの考えに基づいて表し直すと、以下のようなイメージになるでしょう。

図1 「傘」という記号

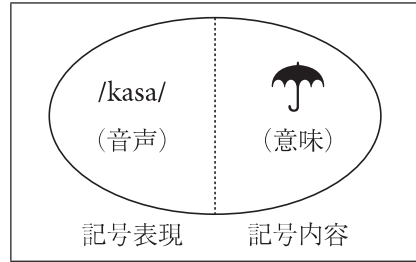
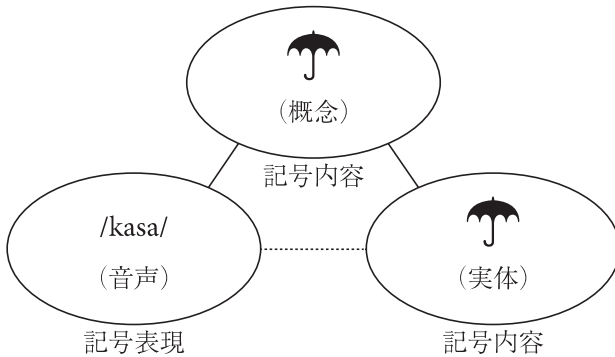


図23 「傘」という記号（修正したイメージ）



ソシュールの説明では「記号内容」に含まれる概念と実体との関係が曖昧でしたが、意味の三角形ではそれらを明確に2つに分け、音声などの記号表現と実体の伴う記号内容との間には直接的なつながりがないことを指摘しました。つまり、意味の自立性を否定し、意味は話者に依存しているとして、言葉における思考の重要性を明らかにしたのです。この点で、オグデンとリチャーズは語用論の先駆者であると見なす研究者もいます。